

---

# ナツソラ-SummerSuger-

藤宮智尋

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ナツソラ - Summer Sugar -

### 【Nコード】

N4677BA

### 【作者名】

藤宮智尋

### 【あらすじ】

あの日の夏

まだ15歳の俺はこの季節に

君に恋をした。

だけど

君は俺の届かないところへ行ってしまった。

あの夏から数年

また君と巡り会逢う事になる。

そんな彼、ほんじょうそうま本城湊馬と

彼女、涼原ソラ（すずはらそら）の数年に渡る

波乱と甘酸っぱい恋に満ち溢れる

恋の物語の幕が上がる。

[illegible]

季節は夏。

気温30 越えのこの蒸暑い夏の中

俺は高校受験のため必死に図書室で一人受験勉強をしていた。

毎年というかここ2年のこの夏休みだけに図書室で勉強しに来ている。

もちろん、この夏休みに学校に来ているのは俺一人だけ。

他の人は旅行だの、遊びだの、家でのんびりしてるだので学校なんかに来ない。

俺は家に居ても図書館に居ても落ち着かないからよくここに来てい  
る。

何でだろ・  
・  
・  
・。

不思議とここに居ると落ち着くんだよね……。

誰も居ないはずなのに

まるで天使がどこかで俺をみている感じがして・・・。

・・・みたいな感じで毎日ここで真面目に勉強とか。

はぁ・・・。

現実には天使なんて

居るはずがない。

天使みたいな人が・・・。

「・・・現れたらなぁ・・・。」

ガラッ！！

0  
2

サアア・・・

不思議だ

窓は開いてないはずなのに

どこからか風が吹いている

そして

ただ呆然と俺は

図書室の扉をただずっと見つめていた。

俺は不思議と口が動きこころ声をかけた。

「だ、誰か居るのか？」

すると

図書室の扉から

天使のような少女が入ってきた。

少女の格好はこの学校の制服を着ていて、髪は腰まで長く、髪色はモンブランブラウンみたいな変わった色をしていて、目は綺麗なブルーの瞳で、身長は低く華奢な体系をしている。

俺の前にそんな天使のような少女が舞い降りてきたみたいに現れた。

転校生…なのかな…？

俺は少女に尋ねてみた。



「あ、あのっ…」

「何ですか？」

「転入生…かな？珍しいね。夏休みは殆どこの学校に生徒なんて来ないんだけどな…。見学かな？」

「ええ、そうですよ。1週間前にイギリスから帰ってきたんです。終業式の数日前にここの転入手続きを終えて転入したんです。」

「へえ。あ、名前は？」

「僕はソラ。涼原ソラ。クラスは3 - F。」

「よろしく涼原さん。俺は本城湊馬。クラスは3-Cだよ。」

名札を見たとき今時カタカナで“ソラ”なんて珍しいなあと思った。

そつえばイギリスからって言ってたから帰国子女なのかな？

日本語もうまいし…。

「本城…君でいいのかな？」

「あ、ああ湊馬でいいよ。呼び辛いでしょ。」

「あ、じゃあ湊馬君、そのいつも図書室に居るんですね。」

「え、ああうんそうだよ。」

「どうして図書室なんですか？」

「ここが落ち着くんだ。俺の安心できる場所。」

「そうなんですネ。…分かる気がします。」

「ありがとうございます。」

俺と涼原ソラは1時間くらい話をしていて

涼原ソラの携帯に着信音が鳴り出した。

「いけない！そろそろ迎えが来る時間だ…。」

「そっか、気をつけて帰るんだよ。」

「ありがとうございます湊馬君！！話せて嬉しいです！！」

そう言って彼女は図書室を後にした。

俺は不思議な出逢いをしたと思う。



あれから

ほぼ毎日彼女は僕のところへ来ていつも話している。

次第に僕もソラと呼び始めていた。

「ソラの誕生日はいつなの?」

「僕の誕生日は8月25日です。」

「俺と1日しか違うじゃん」

「そうなんですか?」

「ああ俺は8月24日が誕生日。」

「1日早いですねー」

「うん。」

「って誕生日来週じゃん。」

「そういえば…誕生日は嬉しいけどもう夏も終わっちゃうんですね。」

「だなっ…」

「そうだ…」

「もう夏休みも終わってしまう。」

「この図書室もそろそろ使えなくなるのか。」

なんか少し寂しいなって思う自分が居た。

05

8月24日

今日は俺の誕生日。

けど

今日も図書室に来ている。

正直自分の誕生日は嫌いだ。

あの日を思い出すから。



「ああなんでこう思い出しちゃうんだろ……。」

「何をですか??。」

「おわっ!!?。」

俺はおもいつきし椅子を反転させそのまま転倒した。

「だ、大丈夫ですか!!?。」

「いっつー…大丈夫…。」

「あっ…指…。」

俺の右手の薬指に少しの血が流れてる

転倒したときにすってしまったのからだ。

「指見せてください。」

ドキッ…

「え、ちょ、大丈夫だからッ」

「じっとしてて」

「は、はいっ…」

…って何ドキッしてるんだよっ…

「はい、できたっ。」

「さ、さんきゅ…」

「他に怪我とか…大丈夫ですかっ？」

「大丈夫。へーきだから。」

「よかったあ…」

「そーいえばさ…」

「はい？」

「お前よくここ来るよな。」

「はいっ…落ち着くんです。一番ここが…」

「そっか…。」

「僕…転入してもいつも勉強ばかりの毎日でなかなか外に出られなくて…そこで、学校に行ってみて、貴方に出逢ったんです。貴方と居ると凄く楽しくて、毎日が夢のようで…。」

「な、なんか…照れるなッ…。」

「あ、いあ、そのっ…お、お友達になれて嬉しいんです。」

「俺もだよ、ソラ。」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4677ba/>

---

ナツソラ-SummerSuger-

2012年1月14日17時51分発行